

第6章

松永葵

国際政治にできること

- 将来的な予測精度の可能性について

1. 戦争の予測は可能か

- 平和愛好国と戦争中毒国を読み解く
 - ジニ係数(=不平等の指数)を利用→戦争が偏って存在
 - 平和愛好国と戦争中毒国の特徴
 - 平和愛好国を増やす方法
- 時計と雲と白鳥
 - まったく予期しないイベントで予測困難 = 黒い白鳥
 - 戦争が多い国が偏っていても、(核兵器など)予測は困難
 - 国家間紛争・内戦・テロリズム(繰り返しデータが蓄積)は精度の高い予測
- PRIOの挑戦
 - 25人以上の戦死者数を出した紛争 = 「雲」
- ウサプラ大学の試み
 - 予測を一か月単位で行う
 - PRIOの予測モデルよりも高度な推定モデル

2. 予測結果とわれわれにできること

- ヘグレらの実証研究
 - 1990年代と比べると戦争の生起確率は減少している
- ViWES
 - 紛争のタイプに応じて確率を計算
- クーデター予測
 - クーデターの確率は2018年から2019年で上昇している
- われわれに何ができるのか？
 - データサイエンスが社会科学に与えるインパクト→予測精度は高まるだろう
 - ？
 - 戦争・・戦略的相互作用の産物であるという考え
 - 透明性が高く、科学としての国際政治学の蓄積が増えれば、戦争の原因・平和の条件・将来のより正確な予測が可能に
 - 科学の力で透明性があるなかで議論を行い、いかに不毛な戦争を回避できるのかについて知恵を出し合う必要がある